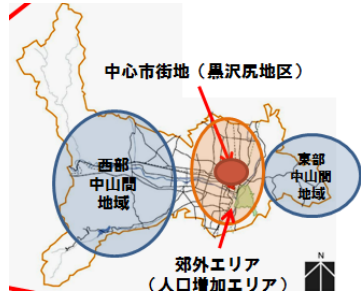


モデル事業名	元気な地域の「かたち」創造ワークショップ
活動団体名	特定非営利活動法人 いわてNPO-NETサポート
ホームページ	http://www.npo2000.net
所属/ 担当者名	事務局長 菊池 広人
連絡先	電話：0197-61-5035 FAX：0197-61-5036 メール：npo@npo2000.net
活動地域	岩手県北上市
<p>● 活動地域の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ●岩手県北上市 人口 93,101人 ●中山間地区の人口減少と少子高齢化（過去10年間の人口動態） <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加率 北上市 105.7% 郊外エリア（相去地区）116.9% 中心市街地（黒沢尻地区）107.5%、中山間地区（口内地区）84.5% ・高齢化率 北上市 21.3% 郊外エリア（相去地区）16.6% 中心市街地（黒沢尻地区）19.7%、中山間地区（口内地区）36.8% ●中心市街地における空き店舗数の増加、市街地交通量の減少 ●中山間地区における生活基盤（農協、診療所、個人商店）の閉鎖、規模縮小 	
	
<p>● 活動地域の課題</p> <p>北上市は積極的な企業誘致により、平成20年までは段階的に人口が増加しており、特に郊外部である新興住宅エリアにおいてその傾向は顕著である。一方、市内中山間地区においては人口減少、少子高齢化が課題になっている。実際、診療所や農協の閉鎖など生活基盤の縮小も進んでいる。</p> <p>一方、郊外エリアへの大型郊外店の進出により、中心市街地には空き店舗が目立ち、このままであれば中心市街地の都市機能を失う可能性もある。</p>	
<p>● 活動の内容</p> <p>（全体）</p> <p><活動概要および結果></p> <p>①中心市街地の都市基盤活用のための補完的交通社会実験</p> <p>市民、行政、交通事業者、有識者がいっしょになり、中心市街地において、歩いて動けるまちづくりのためのまちなか点検を行った。その結果、市内には人口の割に多くの路線バスが残っているが、それを活用するためのサインやPRが不足していることが明らかになった。そのため、案内サインの変更や時刻表の改善などを行い、現状ストックを活用した社会実験を行った。</p> <p>②コミュニティにおける車が運転できなくても暮らしていける交通基盤社会実験</p> <p>地域コミュニティにおいて、地域内、地域間交通に関する勉強会、ワークショップを開催するとともに、既存の乗り合いタクシーに関しての改善実験を行った。その結果、現在の公共交通を活かすための取り組みとして、現状路線やサービスの改善への地域住民の参画と、幹線までの補完的交通への参画という方法を地域住民と共有することができ、特に過疎地有償運送に関しては、今後の参画基盤を構築することができた。</p> <p>③元気な地域の「交通のかたち」の提言</p> <p>昨年度は、元気な交通のかたち実現に向けた公共交通ビジョンへの情報提供および、市の各施策への反映を目的とした元気な地域のかたち実現に向けた具体的施策の検討を行った。</p> <p>本事業で、きたかみ型のコンパクトシティの方向性を共有し、次年度以降、市の関係各課および地域、各事業主体と連携し、実施することで、北上市全体を元気にするコンパクトシティのかたちと具体的な施策が構築できると考える。</p> <p>（直近1年間の進捗など）</p> <p>昨年度の取り組みを活用し、北上市の企画部局、建設部局を中心に、農業、商工の担当者等が参加し、国土利用計画、総合計画、都市計画マスタープラン、農業振興、中心市街地活性化等、それぞれの事業を横断的かつ、共通のビジョンで進めるための連絡会の開催や共通での調査の実施等、昨年度のビジョンを実現化するための取り組みを実施している。また、過疎地有償運送の実現や、まちなかバスターミナルや地域における支線交通支援の仕組みの構築等についても現在検討が行われ、次年度以降の実現に向け、現在調整を行っている。</p> <p>これらの事業については、地域・NPO・行政が協働で取り組んでおり、きたかみ型のコンパクトシティの実現にむけた環境整備が進んでいる。</p>	

● 活動の成果

・全体

①中心市街地の都市基盤活用のための補完的交通社会実験

北上市においては、北上駅とさくら野近辺の2つのバス路線の核があり、そこを結ぶ路線は100本を超えることが今回の調査により、明らかとなり、新しい都市内交通の確立ではなく、既存ストックの活用という本事業本来の視点により実施することができた。この改善案の提案により、現在の路線バスへの利用者誘導をおこない、路線バスの活性化、そして農村部と中心市街地を結ぶ路線の確保・活性化による中心市街地活性化につながることを期待される。

②コミュニティにおける車が運転できなくても暮らしていける交通基盤

1) 乗り合いタクシー改善実験

今回の地域交通勉強会やワークショップ、先進地視察などにより、各地域において「地域で支える公共交通」の概念が浸透したことによって、今度は地域住民が改善に視点をうつしたことが今回の大きな成果であると考えている。社会実験においても、これらの意見交換を反映させ、事業者である和賀観光タクシーとの協働により、案内の改善とダイヤ改正、バス路線との連携促進を行った。本事業によって、新規顧客の獲得につながるなど、スタートは順調である。

2) 過疎地有償運送実施実験

今年度は、過疎地有償運送実現に向けた調査および関係団体（北上市、東北運輸局、岩手県タクシー協会、北上市タクシー業協同組合、岩手県交通、岩手県交通労働組合、北上市社会福祉協議会 など）との制度勉強会、ビジョン共有を行い、次年度以降の本格実施に向けた基盤整備事業を行った。調査においては、北上市口内町の半数を超える300戸の地域住民が、利用および利用支援を実施し、50名のボランティアドライバーの利用意向があるなど、実際の実施についての基盤となるデータベースが構築された。



③元気な地域の「交通のかたち」の提言

今年度は、元気な交通のかたち実現に向けた公共交通ビジョンへの情報提供、案の提案および、市の各施策への反映を目的とした元気な地域のかたち実現に向けた具体的施策提言を行った。今後、各施策担当課との連携により、今回のワークショップや社会実験で得た情報と、アドバイザー会議の内容を、具体的な元気な地域のかたちに浸透させていく。

・直近1年間の成果など

①中心市街地の都市基盤活用のための補完的交通社会実験

北上市の交通担当、都市計画担当、商業振興担当と連携し、まちなかバスターミナルや、コミュニティバスのまちなかにおける利便性向上等を実施に向け準備をしている状況となっており、その基盤を活用した中心市街地活性化についても今後、商店街と一緒に検討していく状況である。

②コミュニティにおける車が運転できなくても暮らしていける交通基盤

本年7月に過疎地有償運送が本格的にスタートしたほか、自治組織と地域NPOが協働で過疎地有償運送と路線バスの結節点に、日用生活用品を購入できる商店を独自で立ち上げる等、さらなる生活基盤の構築にむけた取り組みが地域で生まれている。また、北上市においても支線交通の基盤整備に取り組む方向で、公共交通アクションプランの策定を現在おこなっており、さらなる地域交通基盤が地域住民の意思によって充実できる環境が生まれる状況となっている。

③元気な地域の「交通のかたち」の提言

今回の取り組みでは、北上市の企画部局、建設部局を中心に、農業、商工の担当者等が参加し、また都市部、農村部のそれぞれ背景の違う地域コミュニティも一緒に取り組んだことによって、コンパクトシティの概念、そしてまちのこれからの方向性を共有することができた。また、北上市は現在、総合計画、各地区の地域計画をはじめ、都市計画マスタープラン、公共交通ビジョン等、同時期に策定をおこなっており、この取り組みが各セクションを横断した施策策定においても連携を生む結果となった。このことが、今後の輝く地域コミュニティと都市を支える中心市街地の連携による「北上型コンパクトシティ」の実現に向けた基盤となり、本事業の一番の成果であると言える。

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

地域住民においては、東北版のコンパクトシティの概念を理解している方としない方での2極化があり、今後より多くの地域住民に、「持続可能なまちづくり」に対して共感を生む仕組みをつくる必要があると考えている。

・展望（今後の取組みや検討について記入）

今後、市全体、各地域のまちづくりのビジョンをどのように実現していくかにおいて、その空間・環境の部分を包括的に行うのが、本取り組みであると考えている。その中で、現状においてもさまざまな主体や行政部局が同じビジョンに基づき取り組みを行っている。今後、具体的な政策形成を横断的に行っていくことによって、持続可能なまちの仕組みの構築につながることを考える。